

埼玉県地球温暖化防止活動推進センター センターだより



No.3

発行責任者 ● NPO法人環境ネットワーク埼玉

IPCC第4次評価報告書第2作業部会(影響・適応・脆弱性)、 第3作業部会(気候変動の緩和策)報告書が発表されました

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第4次評価報告書第2作業部会報告が4月、第3作業部会報告が5月に発表されました。前回に引き続き要約の中の数点をお知らせします。

詳しくは環境省 <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8258> をご参照下さい。

<影響・適応・脆弱性>について

- 地球の自然環境（全大陸とほとんどの海洋）は、今まさに温暖化の影響を受けている。（観測されたデータ数のうち、物理環境については765観測のうち94%、生物環境については28,671観測のうち90%において、温暖化の影響が有意に現れている）
- 淡水資源については、今世紀半ばまでに年間平均河川流量と水の利用可能性は、高緯度及びいくつかの湿潤熱帯地域において10～40%増加し、多くの中緯度及び乾燥熱帯地域において10～30%減少すると予測されている。
- これまで評価された植物及び動物種の約20～30%は、全球平均気温の上昇が1.5～2.5℃を超えた場合、絶滅のリスクが増加する可能性が高い。
- 食物については、世界的には、潜在的食料生産量は、地域の平均気温の1～3℃までの上昇幅では増加すると予測されているが、それを超えて上昇すれば減少に転じると予測されている。

<緩和>について

- 温室効果ガス（GHG）の排出量は、産業革命以降増えており、温室効果ガス全体として、1970年から2004年の間に約70%増加した。現状のままですと、世界のGHG排出量は、次の数十年も引き続き増加する。
- 2030年を見通した削減可能量は、予測される世界の排出量の伸び率を相殺し、さらに現在の排出量以下にできる可能性がある。2030年における削減可能量は、積み上げ型の研究によると、炭素価格が二酸化炭素換算で1トンあたり20米ドルの場合は、年90～170億トン（二酸化炭素換算）であり、炭素価格が同様に100米ドルの場合は、年160～310億トン（二酸化炭素換算）である。
- エネルギー供給：途上国へのエネルギー供給に関する新規投資、先進国におけるエネルギーインフラの改修、エネルギー安全保障関連政策によって、温室効果ガス排出量削減の機会がある。また、エネルギー需要を満たすために、エネルギー供給を増加させるよりも、エネルギー利用効率の向上の投資の方が、費用対効果は大きい。再生可能エネルギーによる電力は、炭素価格が二酸化炭素換算で1トンあたり50米ドルの場合は、2030年の合計電力量の30～35%のシェアを占める可能性がある。



環境ネットワーク埼玉からのお知らせ



1. 特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉 総会報告

平成19年度の総会を6月23日(土)に大宮ソニックシティ602会議室において開催しました。総会に先立ち埼玉県環境科学国際センターの小川部長による「平地のスギ枯損の原因はわかったのか」と題して基調講演をいただきました。

小川部長の講話より要約

スギ苗の生長に及ぼす影響は、灌水量がもっとも大きく、次いで湿度であり、現状レベルのオゾン濃度の影響は小さい。したがって、野外においても降水量が生長への影響は極めて大きいことが考えられる。

関東地方では、スギの局地的な衰退分布にもっとも整合性が良かったのは湿度である。降水量が比較的少ない地域では、スギは長期間水ストレス状態におかれ、大気乾燥が加わることで、生長抑制から梢端枯れへの「可逆的な影響」をもたらすと考えられる。水ストレスは水の消費と供給のバランスの結果であり、供給側である降水量や



土壌物理性など、地域によって異なる要因が水ストレスを助長、軽減しているものと考えられる。結論として、スギ衰退の主要因は、少なくとも、何らかの要因によってもたらされる水ストレスである可能性が高い。オゾンが影響しているとしても、生長抑制の結果として水ストレスを助長するものと考えられる。

総会においては、正会員の6割の方々の出席(委任状を含む)をいただき、活発な質疑応答・意見交換をして、計画通り承認されました。

2. 地球温暖化対策地域セミナー in 春日部

環境ネットワーク埼玉理事 鳥居 貴代美

7月14日(土)に春日部市役所第二別館において、地域セミナー in 春日部を開催しました。第一部は、国際環境NGO oe JAPAN森林プログラムディレクター 中澤 健一氏をお招きして「世界の森林と地球温暖化、私たちの木材消費」～世界の森を守る木材製品の選び方～と題して講演をいただきました。

世界の森林の状況は、世界全体で年間1300万haが喪失しています。温帯地域に増加傾向が見られ、熱帯地域に減少傾向が見られます。森林と温暖化の関係では、現在成熟林を伐採することで排出されるCO₂を植林で回復するためには100年以上を要します。そのため、植林を推進するよりも森林破壊を抑制するほうが生産的だそうです。

日本の木材需要は、紙が4割、残りは建築・土木、家具などであり、太平洋周辺国からの輸入木材が2/3を占めているそうです。古紙を進めてきた日本ですが、古紙利用率6割が板紙中心であり、紙だけでは古紙利用率36%、特に情報・印刷用紙では、古紙利用率2割だそうです。

最後に、身の回りの木材製品産地ということで、①出所の不明な紙・木材は買わない。②100%原料が明らかな紙・木材を選ぶ。③森林認証製品(FSC)を選ぶ。④できるだけ近くの木材(国産材)を選ぶ。ということが大切であるとお話でした。

第二部は、講師埼玉県地球温暖化防止活動推進センター秋元事務局長によるエコドライブ講習会を実施しました。エコドライブとは、燃費を向上させ、温室効果ガスの排出を少なくする、環境に配慮した自動車の運転方法のことです。無駄な空ぶかしをしない、無駄な荷物を積まないなど運転手が意識して行動することにより簡単にできるとのことでした。



森林と温暖化について聞き入る参加者



エコドライブ講習会に聞き入る参加者



3. 長野・東京ガスの森を見学しました

今回NPO法人環境ネットワーク埼玉では、会員のみならずと地球温暖化対策の一つである森林吸収源の森について現地学習会を開催しました。

8月1日（水）東京ガス埼玉支店の協力をいただいて、東京ガスが所有する長野・東京ガスの森に総勢約40名で向かいました。当日は好天に恵まれ、浅間山が遠くに見えるなど絶好の景色が臨まれました。

東京ガスの森には3つの見学コースがありますが、今回は見晴展望コース（1時間コース）を3班に分かれて登山しました。所々でネイチャーゲームをしたり、熊が木に登った時の爪あとやめずらしい動植物を発見しながら楽しい時間を過ごしました。特に東京ガスの森では「どんぐりプロジェクト」を推進しており、針葉樹だけではなく広葉樹を植林し、混合林をつくることによって豊かな森を育成しようと取り組んでいます。このプロジェクトでは、どんぐりを「拾う」「育てる」「山に移植する」の一連のサイクルでの森作りを子どもたちの環境学習も兼ねながら実施しています。下山後は、1班3～4人に分かれてヒノキの間伐体験を行ないました。今回は傾斜の厳しいところにある直径20cmくらいのヒノキを伐採しましたが、中腰の作業を強いられ、鋸を引くにも力が足りないなど森林労働の大変さを垣間見ることができました。



最後に管理棟に戻り、東京ガスの環境への取組について説明を受けました。企業の社会的責任CSRとして環境保全是かかせないとのことでした。こちらの管理棟は長野県産のカラマツ間伐材を使用した木造1階建ての建物で、電気は風力、太陽光および水力発電（マイクロ水力発電）を利用、トイレ・手洗いの水は沢水を利用するなど、自然の資源を有効に活用し森に負荷をかけないような作りとなっています。また冬の暖房用にはペレットストーブが設置してあります。

長野・東京ガスの森の見学は、新鮮な森の空気をいっぱい吸うことができ、明日からの活動への元気をたくさんもらえた1日でした。

最後に管理棟に戻り、東京ガスの環境への取組について説明を受けました。企業の社会的責任CSRとして環境保全是かかせないとのことでした。こちらの管理棟は長野県産のカラマツ間伐材を使用した木造1階建ての建物で、電気は風力、太陽光および水力発電（マイクロ水力発電）を利用、トイレ・手洗いの水は沢水を利用するなど、自然の資源を有効に活用し森に負荷をかけないような作りとなっています。また冬の暖房用にはペレットストーブが設置してあります。

推進員研修会報告

エコドライブ普及員養成講習会を開催しました

6月30日（土）さいたま新都心にあるウイズユーさいたま（埼玉県男女共同参画推進センター）において省エネルギーセンターの支援を受けて、エコドライブ普及員講習会を開催しました。この講習会は、埼玉県内の推進員を中心に15名の方々が参加し、実技訓練と座学講習を受講した後、各地域で市民対象に座学講習会を開催するものです。

各地域のエコドライブ講習会は、12月末完了を目標にそれぞれ各会場約30名の方々に参加していただく予定となっています。実技訓練では、25%～30%の燃費削減という方もいて、エコドライブの効果は顕著に表れていました。

★「エコドライブ10のすすめ」

- (1) ふんわりアクセル「eスタート」「やさしい発進を心がけましょう」
- (2) 加速度の少ない運転
「車間距離は余裕をもって、交通状況に応じた安全な定速走行に努めましょう」
- (3) 早めのアクセルオフ「エンジブレーキを積極的に使いましょう」
- (4) エアコンの使用を控えめに「車内を冷やし過ぎないようにしましょう」
- (5) アイドリングストップ「無用なアイドリングをやめましょう」
- (6) 暖機運転は適切に「エンジンをかけたらずすぐ出発しましょう」
- (7) 道路交通情報の活用
「出かける前に計画・準備をして渋滞や道路障害等の情報をチェック

- クしましょう」
- (8) タイヤの空気圧をこまめにチェック
「タイヤの空気圧を適正に保つなど、確実な点検・整備を実施しましょう」
- (9) 不要な荷物は積まずに走行「不要な荷物を積まないようにしましょう」
- (10) 駐車場所に注意「渋滞などをまねくことから、違法駐車はやめましょう」



実技講習風景

(財) 省エネルギーセンター 「エコドライブ10のすすめ」より

埼玉県地球温暖化防止活動推進センターからのお知らせ

1. 省エネルギー住宅への取り組みについて

環境ネットワーク埼玉では、平成19年度主体間連携モデル推進事業委託業務として省エネルギー住宅の普及促進に取り組みます。実施内容につきましては、①さいたま市省エネ住宅推進地域協議会の設置により、本事業の企画・運営・効果の検討を行います。②市民向けフォーラムを開催します。③総合住宅展示場における啓発④環境共生住宅やハウスメーカーの研究所へ見学、その他環境イベントへ出展して省エネルギー住宅への普及啓発を図る予定です。

さる6/23(土)、24(日)に住宅リフォーム新聞社主催による「住宅リフォームフェア2007 in 埼玉」が開催されました。当団体も出展し、温暖化防止対策のパネルや省エネ住宅の模型などの展示を行いました。省エネ住宅の



省エネ住宅外観



省エネ住宅内部状況

模型は今回新しく作成したもので、遮光や遮熱に配慮しており、屋根にはソーラーパネル、壁や屋根には断熱材、ペアガラス、空気の流れ等がわかりやすいように示されています。貸出し希望の場合は事務局へご相談ください。

2. ストップ温暖化 “冷やせ！彩の国” コンクール募集中！

当センターではストップ温暖化“冷やせ！彩の国”コンクール参加者を現在募集しています。ストップ温暖化“冷やせ！彩の国”コンクールとは、県・市町自治体、地元の企業、団体、推進員、メディア等と連携して地域における球温暖化対策のシンボルとなるアイデアや取組の公募を行い、地方コンクールの開催を通じて選定し、全国大会へと提出するものです。

その結果地域における温暖化対策のムーブメントの創出を図り、地域レベルでの温暖化防止の活動の輪を広げ、取組をより一層推進すること目的としています。

なおこの事業は環境省の委託事業「一村一品・知恵の環づくり」として全国の温暖化防止活動推進センターが横並びで一斉におこなっているものです。埼玉県センターは県や市町村の協力を得ながら現在推進しています。

ストップ温暖化“冷やせ！彩の国”コンクールを通して、より多くの県民に地球温暖化に対して意識を喚起してもらい、具体的な行動へのきっかけづくりとなればと思っています。

埼玉県における地球温暖化対策のアイデアや取組を是非お寄せく

ださい。締め切りは9月21日です。また合わせて、小中高生対象の温暖化防止のポスターコンテストも募集しています。多くの応募をお待ちしています。詳しくは <http://www.kannet-sai.org> をご参照下さい。



地域・会員活動報告



1. 埼玉県地球温暖化対策西部地域協議会連絡会設立について

会長 荻原 洋志

4月7日（土）和光市役所において、多くの方々にご出席をいただき、行政の区域割を超えて地域活動をさらに強化するための、市民同志の連携による環境活動組織「埼玉県地球温暖化対策西部地域協議会連絡会」を、西部地区各市および埼玉県環境科学国際センター、埼玉県地球温暖化防止活動推進センター他の行政機関のご理解・ご支援をいただき、無事にスタートすることができました。

飛行機と一緒に、離陸時には凄いエネルギーを必要とします。当会は西部地域の一般市民はもちろん、地域で環境保全に取り組んでいる多くの市民団体や事業者に加え、大学・学生・行政機関と連携して広域なネットワークを築くことにより、地域における諸問題や課題・情報交換等を行いパワーアップを図りたいと思っています。さらに行政や市民団体と協同しながら、パートナーシップ構築のための取り組みや、対等のパートナーとして地球環境問題に取り組めれば、若年層はもちろん、市民の関心も引き出せるものと考えております。

幅広く多くの方が参加され、地域活動がより活発になり、県内における環境情報発信の基地になるのも夢ではないのでは！と思います。みなさまから期待されて誕生したこの会を、力を合わせて大きく育てて行くのは私たちの責任です。



2. 富士ゼロックス(株)岩槻事業所（さいたま市岩槻区）からの報告

岡村 長武

打ち水大作戦とソーラークッカーによる「夏の環境イベント」は大盛況！

「めざせ！1人、1日、1kg CO₂削減」

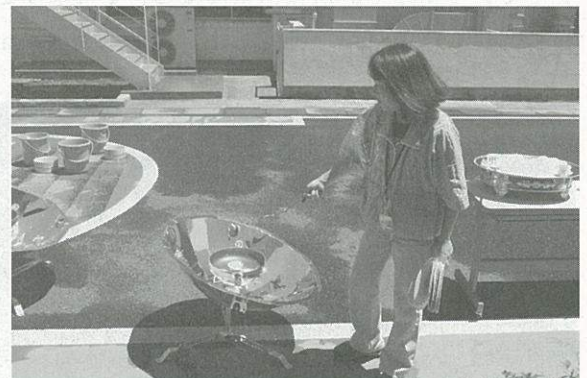
7月24日（火）従業員の地球環境に対する意識向上を目指し、夏の環境イベントを実施しました。イベントとしては、“雨水を使って地球の温度を2度下げよう”の合言葉で行った「打ち水大作戦」と“太陽の恵みそして自然エネルギーの凄さを感じよう”の合言葉で行った「ソーラークッキング」、そして地球環境の問題と現状に関するパネル展示を実施しました。（ソーラークッカーとパネルは埼玉県地球温暖化防止活動推進センターから借用）

当日はこれまでの曇り空とは一変して、雲ひとつない快晴となりました。おかげさまで約150名もの多くの従業員が参加して、楽しく打ち水をしたり、ワイワイガヤガヤとゆで卵やホットケーキを作ったりして、改めて環境問題を考えることはもとより、職場内のコミュニケーションを図ることもできました。

ぜひ今後もこのようなイベントを実施して、従業員一人一人が家族も含めて地球に優しくなれるよう啓発活動を推進していきます。



みんなで打ち水体験 涼しい風がきました



ソーラークッカーでゆで卵を作ろう

3. さいたま市環境会議打ち水大作戦2007報告

エアコンつけなくたって 少しくらい暑くたって ええじゃないか！

夏の暑さから涼を得るため、昔から日本の習慣として行なわれてきた「打ち水」を現代の生活に取り入れようと「さいたま市環境会議」主催による打ち水大作戦2007が実施されました。

A作戦として7月28日（土）～8月5日（日）さいたま市内一斉打ち水週間として銘を打ち、参加者を呼びかけました。各家庭や事業所などで日を決め打ち水を行ない、その結果を報告し公表する取組です。サッカーチームのアルディージャや東京ガス埼玉支店などが参加し、各所で打ち水を行ないました。

B作戦として8月3日（金）さいたま市下水道部と一しょにさいたま新都心駅通路にて、「打ち水」イベントを行ないました。さいたま新都心に溜まった雨水を浄化した水を利用し、オフィスの人々や通行人に呼び掛けいっしょに水まきを行ないました。多くの参加者が楽しく水まきをした結果温度が下がり、暑いビルの谷間に清涼な一風が吹いてきたのが感じられました。



緑から涼しさをもとめる展示



打ち水を楽しむ参加者

事務局からのお知らせ

1. “センターだより” の原稿募集について

“センターだより”を半年ごとに発刊することで進めています。当団体の行事や地域でのいろいろな活動について原稿を募集しています。皆様方から情報を発信していただき、この情報誌を交流の場の一つとしてご利用いただけると幸いです。是非皆様からの原稿をお待ちしております。

2. 特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉会員募集について

正会員

会費種別	個人会員	団体会員(非営利)	団体会員(企業)
年会費	5,000円(1口)	5,000円(1口)	50,000円(1口)

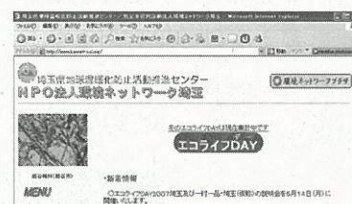
賛助会員

会費種別	個人会員	団体会員(非営利)	団体会員(企業)
年会費	2,000円(1口)	2,000円(1口)	10,000円(1口)

* 申込みに関する詳細につきましては事務局までご連絡ください。

3. ホームページについて

当センターではホームページを開設しています。その中にある「彩の国環境ネットワークプラザ」には、埼玉県内をはじめとするイベント情報や当団体会員名簿、環境保全団体名簿、協働や助成金の情報を掲載しています。また、交流スペースとなっていますので、情報、事例など、どんな小さいことでも構いませんのでどしどしお寄せください。連絡先は、info@kannet-sai.org まで



編集・発行

発行日 2007年9月1日

埼玉県地球温暖化防止活動推進センター／特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉

さいたま市大宮区桜木町1-7-5 大宮ソニックシティビル30階

TEL: 048-649-8087 FAX: 048-649-8088 <http://www.kannet-sai.org/>

開館日・時間 平日、土・日、祝日 午前10時～午後6時（水曜日休館）

場合によっては、臨時休館日があります。情報やお知らせ等、是非お寄せください。